

公害対策の先駆者

住友第二代総理事 伊庭貞剛



伊庭貞剛 (1907年頃)
住友史料館所蔵

中山道武佐宿を西に進むと、
広々とした公園にそびえる大き
なクスノキが目に入ります。明
治時代の実業家で、住友第二代
総理事である伊庭貞剛の生家跡
です。
貞剛は、弘化4(1847)
年1月5日、現在の近江八幡市
西宿町で生まれました。伊庭家
は、近江源氏の流れをくむ旧家
で、代々西宿村の庄屋および同
村を支配していた泉州伯太藩
(現大阪府和泉市) 近江湖東領
の代官も務めました。

貞剛は新政府に出仕し、明治
10(1877)年9月、32歳の時、
函館裁判所から大阪上等裁判所
の判事にまで昇進しましたが、
翌年の12月、裁判所に辞表を提
出し、初代住友総理事であった
叔父の広瀬幸平に故郷へ帰るこ
とを告げました。すると、広瀬

は経済界でも国家に役立つこと
があると強く入社を勧め、翌12
(1879)年2月、貞剛は33
歳にして住友に入社しました。

貞剛の住友での功績として、
一番著名なものに環境問題への
対応があります。住友が経営す
る愛媛県の新居浜の別子銅山で
は、製錬所の亜硫酸ガスにより
農作物を枯らす煙害が発生し、
明治28(1894)年9月には
農民暴動がおこりました。翌年
別子銅山支配人として赴任した
貞剛は、社内重役と職員、会社

と農民との関係悪化が騒動の要
因と考え、まず第一に銅山や地
域を歩き、職員や農民と対話を
することから始めました。

次に貞剛は、荒廃した別子
の山々を見て、「別子全山をあ
をあととした旧の姿にして、こ
れを大自然にかへさなければな
らない」と、山林保護の方針を
立てました。そのため貞剛は、
新居浜沖の無人島である四阪島
を自分名義で購入し、同島へ製
錬所の建設願を政府に出しまし
た。これには、すでに引退して
いた叔父の広瀬幸平からも大反
対されましたが、貞剛はこれを
断行し、専門技師を雇って別子
銅山の山林計画を策定、植林事
業も敢行しました。貞剛の別子
銅山支配人就任まで毎年平均
6万本に満たなかった植林木数
は、明治27年以降毎年百万本を

越えるようになりました。また、
四阪島製錬所創業時は、周辺地
域への煙害問題が発生し、その
対応に苦慮しましたが、後年、
亜硫酸ガスの脱硫・中和装置と
いう技術で根絶しました。
貞剛の功績は高く評価され、
同時期栃木県の足尾鋳毒事件を
追及する田中正造は第15回帝国
議会において、「別子銅山では
経営者の判断によって製錬所そ
のものが、新居浜から瀬戸内海
の無人島・四阪島に移された」
と発言しました。

貞剛は「君子財を愛す、こ
れを取るに道あり」を座右の銘
としていました。企業は利益追
求を目的とするが、それは人の
道に沿って行うべきという意味
で、民間人ながら公利公益の信
念を持っていた人物といえるで
しょう。



伊庭貞剛の生家跡(現在のいばeco
ひろば・西宿町)にそびえるクスノキ

❗ 新型コロナウイルス関連の情報は、市ホームページをご覧ください

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、催しが急に中止になることがあります。開催されるかどうかは事前に担当課または主催者へご確認ください。また、市の各施設は臨時閉館を行っている場合があります。

最新情報は、市ホームページ <https://www.city.omihachiman.lg.jp/> で随時発信しておりますので、ご確認をお願いします。

人口と世帯 令和2年4月1日現在
()は前月比

総数	82,018人(-48)
男	40,314人(-13)
女	41,704人(-35)
世帯	34,055世帯(+114)

※外国人住民(43カ国・地域/1,537人)を含みます。

